

第4章 札幌市の文化財の特徴

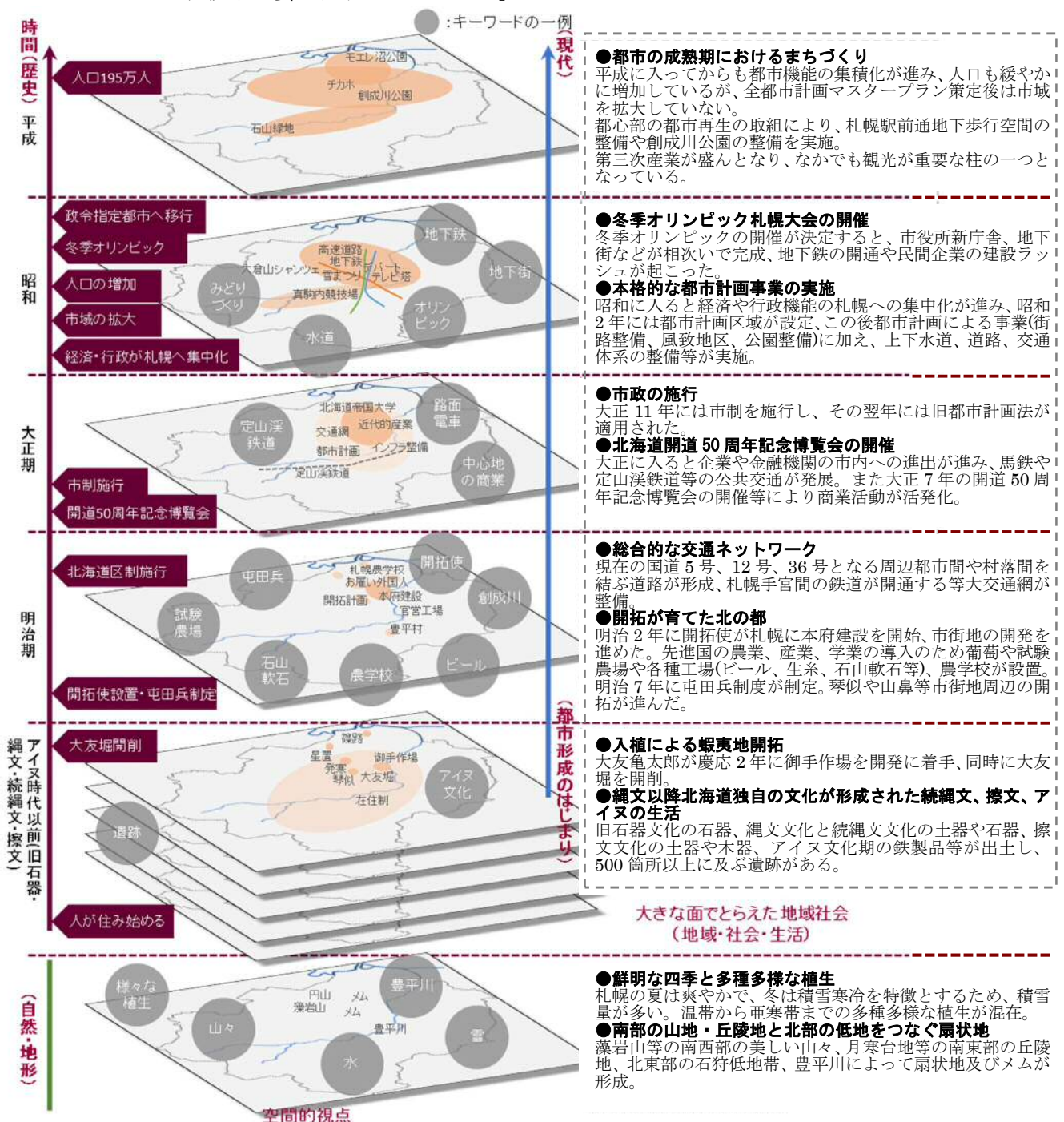
1. 札幌市の文化財の特徴

(1) 札幌市の姿を表す「キーワード」の抽出

札幌市の自然環境、地勢、社会的環境、歴史的背景について文献調査を行い、空間的（自然・地形）・地域社会的（地域・社会・生活）・時間的（歴史）観点から札幌市を表す「キーワード」を抽出する。また、地域ごとの姿を表す「キーワード」は、既存の調査報告書や各地域の資料館での聞き取り調査などからも把握する。

※今後の文献調査等によりキーワードを整理し、記載予定

●想定される札幌市の姿を表す「キーワード」

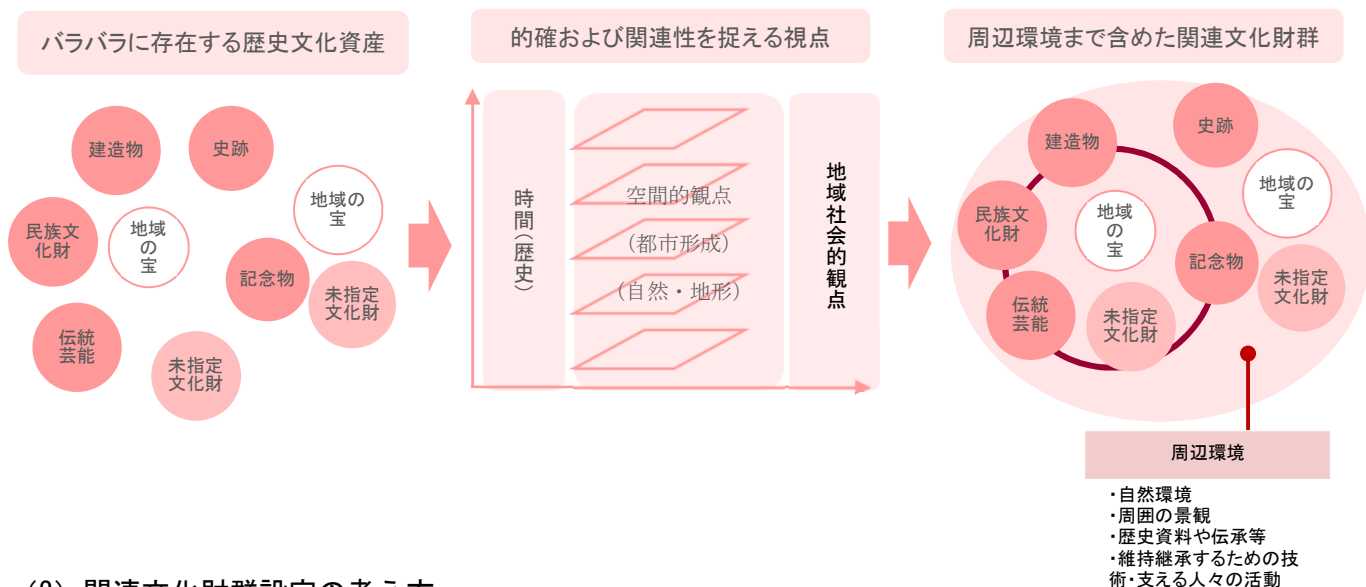


2. 関連文化財群設定の考え方

(1) 関連文化財群の考え方

本来文化財とは、文化財単体で成立し価値を形成しているものではなく、他の要素と密接な関係を持ちながら形成し、継承されてきたものである。文化財本来の価値を適切に保全するために、有形・無形、指定・未指定に関わらず、様々な文化財の歴史的・地域的関連性(ストーリー)を整理し、関連文化財群としてとらえることで、文化財について市民へ分かりやすく伝えることができ、文化財への理解を深めることに繋がる。

また、関連文化財群とは歴史的・地域的関連性(ストーリー)に基づく文化財だけではなく、周辺環境(資産を物語り・繋げるもの、支え維持・継承する仕組み)も含めて捉えることが重要である。



(2) 関連文化財群設定の考え方

札幌市の関連文化財群を設定するにあたっては、広域にわたる札幌市において、多面的・多角的な視点により札幌の歴史文化資産の特徴を捉え関連する文化財を見つけるため、前述のように地域的・歴史的・空間的視点から札幌市の姿を表す「キーワード」を抽出し、第3章で記載した文化財の把握によって整理された文化財を「キーワード」で再整理したうえで、歴史的関連性、地域社会的関連性、空間的関連性の観点から札幌市の「特徴」を整理する。こうして抽出された、札幌市の歴史文化を物語るうえで欠かすことのできない「特徴」に関連するものの集まりを関連文化財群として設定する。

◆札幌市の関連文化財群

- ・歴史的関連性・地域社会的関連性・空間的関連性から見出すもの
- ・札幌市の歴史文化を物語るうえで欠かすことのできない「特徴」に関連する文化財の集まり
- ・今後も継続して市民とともに増やしていく

関連文化財群の繋がりを分かりやすく伝える歴史的・地域的関連性＝ストーリー(以下「ストーリー」)を設定する際は、整理された文化財について、文献などの調査や周辺環境の調査を実施することによって、ストーリーを見出していく。その際には活用の観点からのストーリーを設定することなども考えられる。

※今後の調査、策定委員会、ワークショップにより文章変更

※関連文化財群の認定のプロセスは今後検討していく。

3. ストーリーと関連文化財群

- ・札幌市の歴史文化の特徴をよく反映したものであること
- ・ストーリーで彩りを与えた場合に観光資源としても魅力があること
- ・市民が誇りだと感じるものであること
- ・関連する文化財が無形、有形とも多く見出されていること

(1) 変化に富む地形と豊かな水・緑が生んだ生活・産業文化と景観

概要

市街地から見える藻岩山・円山・手稲山は夏はハイキングや登山、藻岩山・手稲山では冬はスキー場として市民に親しまれ、ロープウェイがある藻岩山には多くの市民・観光客が訪れています。市街地は札幌扇状地の上に位置しており、豊平川の伏流水が扇端部にあらわれたメムがあった苗穂地区ではサッポロビール工場や雪印乳業など豊富な水を必要とする産業を発展させました。

文化財の例: 藻岩山、円山、手稲山、円山原始林・藻岩山原始林、豊平川、創成川、伏古川、ポプラ並木、メム、ビール醸造、福山醸造、雪印乳業、旧西岡水源池取水、藻岩山ロープウェイ、ササラ電車、水田開発記念碑、中谷宇吉郎、定山溪温泉 など

(2) 先人たちの歩みと生活文化を今に伝える遺跡群

概要

札幌市内全域には、旧石器文化、縄文文化、続縄文文化、擦文文化、アイヌ文化期の遺跡が多く残されています。また、埋蔵文化センターなどには多くの関連資料等が収蔵されており、先人たちの歩みや生活文化を見て感じることができます。

文化財の例: 旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図、札幌市 N30 遺跡出土品、S354 遺跡、N30 遺跡、H37 遺跡、K135 遺跡、K39 遺跡、K501 遺跡、K518 遺跡、N434 遺跡、K435 遺跡、札幌市埋蔵文化センター収蔵品、博物館活動センター収蔵品、丘珠縄文遺跡 など

(3) 自然と共に生き育んだ現在に継承されるアイヌ文化

概要

アイヌ民族の歴史を物語る遺跡や遺物は北海道各地に広がっていますが、札幌市内でも確認することができます。また、北海道をけん引する都市である札幌には、北海道立アイヌ総合センターなどアイヌ文化を知ることのできる史料等があり、アイヌ語やアイヌ工芸などを教える団体も多く存在しており、アイヌ文化の継承が活発に行われています。

文化財の例: S501 遺跡、S518 遺跡、メム、アイヌ古式舞踊、アイヌのまるきぶね(T 末期)、サッポロピリカコタン、アシリパノミ、コタンノミ、アシリチェップノミ、ウレシパモシリ北海道イランカラプテ像、北海道立アイヌ総合センター など

(4) 北の地を守り開拓した入植者たちや屯田兵が築いた地域特有の暮らしや文化

概要

札幌では開拓使時代よりも前に、農業開拓のため入植者たちを受け入れ、札幌各所で開拓がはじまりました。その後、北海道の国防と開拓の二つの目的のため屯田兵制が制定されたことにより、さらに多くの人々が札幌へ入植し、それぞれの地域特有の暮らしや文化、精神を今に伝えています。

文化財の例: 発寒村、琴似村、星置村、篠路村、札幌村、吉田茂八、志村鉄一、在住性、大友堀、大友亀太郎、御手作場、屯田兵、琴似兵村、山鼻兵村、発寒兵村、篠路兵村、新琴似兵村、丘珠獅子舞、バツ塚 など

(5) 人々の夢と技術が織りなす札幌の基礎を築いた開拓使時代

概要

明治 2 年開拓使が札幌に設置されてから、開拓判官島義勇が札幌に描いた夢を基に、京都を模した碁盤の目で形成されつつも、アメリカを中心としたお雇い外国人の教えを取り入れながら築かれた札幌には、現在でもどこか異国情緒感じるまち並みがあります。このように、開拓使の時代に、まちづくりや産業、交通、建築など今の札幌に繋がる原型がつけられました。

文化財の例:

建築様式: 豊平館、簾舞通行屋、開拓使札幌本庁舎跡、清華亭、北海道大学農学部第二農場、時計台、永山武四郎邸、五稜星 など

産業: 紡績場、醤油醸造所、味噌製造所、製油所、製網所、ビール醸造、葡萄酒醸造、タマネギ栽培、リンゴ栽培、果樹園、葡萄園、ホップ園、札幌牧羊場、札幌養豚場、手稲牧場、石山軟石 など

人(お雇い外国人等): ホーレス・ケブロン(開拓顧問)、ウィリアム・クラーク(機械)、ウィリアム・ホイラー(建築)、ホルト、エドウィン・ダン(農業)、ニール・マンロー(医師)、島義勇、岩村道俊、永山武四郎 など

都市形成: コタンベツの丘、創成橋、創成川、碁盤の目のまち、北西に官庁・北東に官営工場・南西に町屋住宅・南東に流通宿泊施設のまちづくり、石狩本府指図、大通公園 など

道・交通: 北海道国群名、札幌本道、本願寺道路、後志通、石狩通、石山通、札幌停車場、幌内鉄道 など

(6) 市民生活を支え共に発展した交通と産業

概要

人々の生活と密接に関係している交通と商業。特に市民生活と共にその姿を変化させてきた市電は、札幌の人口増加とともに路線延伸しその電停周辺の発展を支えましたが、地下鉄の建設と共に次々と縮小していきました。しかし、平成 27 年、ループ化による路線延伸が行われたことで、札幌の顔としての印象を高めています。また、その沿線や周辺には古くから始まり今でも姿を残す商業が発展しています。

文化財の例: 馬車鉄道、路面電車、市電、記念花電車、縮小された路線、ササラ電車、花見輸送、円山公園のお花見、年末年始輸送、二条市場、交通資料館、電車事業所、テレビ塔、路線ループ化、ポラリス、南一条通り、丸井今井、狸小路 など

(7) 国際都市へと札幌を発展させた冬季オリンピック札幌大会のレガシー

概要

地下鉄や地下街の建設、民間資本の建設ラッシュ、選手村となった真駒内地域の開発など札幌のまちを大きく変化した冬季オリンピック札幌大会は、札幌を国際的にも知られるまちへと発展させました。

文化財の例: 地下鉄南北線・東西線・東豊線、オーロラタウン、ポールタウン、大倉山ジャンプ競技場、宮の森ジャンプ競技場、サッポロテイネ、真駒内公園、五輪大橋 など

● 関連文化財群・ストーリー案 1 例

「人々の夢と技術が織りなす札幌の基礎を築いた開拓使時代」 (一部)

札幌は明治 2 年、開拓使が設置されたことで市街地の本格的な開拓がはじまった。開拓主席判官島義勇が札幌の原野を見て描いた「いつか札幌を世界一の都に」という壮大な夢が、今の札幌の市街地の発展に繋がっている。開拓使は明治 15 年に廃止されたが、その時代に生まれ発展した歴史文化が市街地に今でも姿や思想を残しており、札幌のまちの魅力となっている。

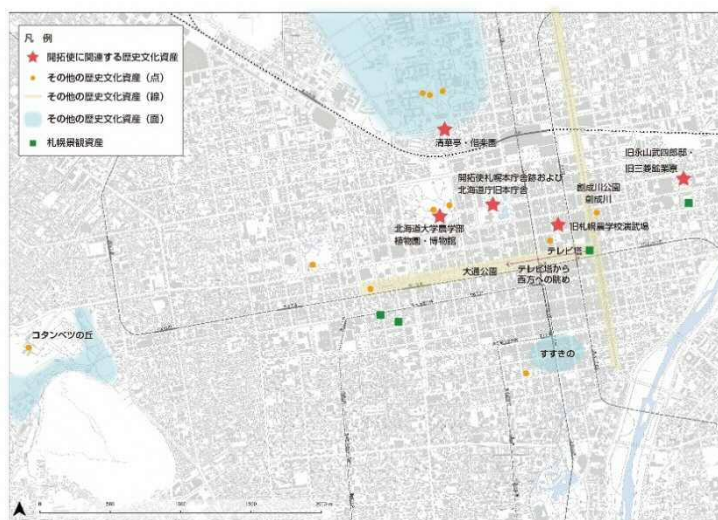
開拓判官島義勇は、「コタンベツの丘(現在の北海道神宮の背後の丘)」から真東を望み、創成川(当時は大友堀)との交点が町づくりの原点となったといわれている。現在の南 1 条通りを東西軸、創成川を南北軸とし、中心に本府を建設し創成川に創成橋を設置。北西部に官庁・学校を、北東部は官営工場、南西部に町屋・住宅を、南東部には流通・宿泊施設を設置するという考えを基本として、現在も残る基盤の目の札幌市街地が形成された。現在でも、北西部には開拓使札幌本庁舎跡や時計台などが残され、北東部には札幌ビール工場などの工場施設、また、このころに設置された歓楽街としてのすすきの(当時は薄野)は現在も賑わいを見せている。

開拓次官(後の長官)黒田清隆はアメリカを中心とした地から、開拓顧問にホレス・ケプロンをはじめとして、測量・土木のワーフィールド、農業のエドウィン・ダンなど、多くの外国人技師たちを雇い入れて、先進国の農業・工業の知識や経験、専門技術の導入や機械など近代的なものを受け入れて、開拓の革新を図った。また、明治 9 年、東京の開拓使仮学校が札幌へ移転し、札幌農学校として開校、ウィリアム・クラークを教頭として迎えた。このように、開拓使時代の札幌には多くのお雇い外国人によって、西洋の文化や技術が導入され、今もどこか異国情緒を感じるまち並みがあるのはそのためである。.....

■ 対象となる文化財の一例

No	大分類	中分類	小分類	名称
1	動産	無形要素	人物	島義勇
2	不動産	実物要素	建築物・工作物	島義勇判官功碑
3	不動産	実物要素	建築物・工作物	島義勇判官銅像
4	不動産	空間要素	伝承にまつわる場所	コタンベツの丘
5	不動産	実物要素	建築物・工作物	北海道神宮
6	不動産	実物要素	建築物・工作物	創成橋
7	不動産	実物要素	自然物	創成川
8	動産	無形要素	人物	岩村道俊
9	不動産	実物要素	景観	基盤の目のまち
10	不動産	実物要素	遺跡	札幌開拓使庁舎跡
11	不動産	実物要素	景観	すすきの
12	不動産	実物要素	自然物	創成川公園
13	不動産	実物要素	自然物	大通公園
14	動産	有形要素	文獻・資料	石狩国本府指図
15	動産	無形要素	人物	ホレス・ケプロン
16	動産	無形要素	人物	ワーフィールド
17	動産	無形要素	人物	エドウィン・ダン
18	動産	無形要素	人物	ウィリアム・クラーク
19	不動産	実物要素	建築物・工作物	時計台
20	動産	有形要素	文獻・資料	開拓使各種資料
21	動産	有形要素	文獻・資料	開拓使各種文獻
・
・
・

■ 関連文化財群のマップの例



※今後の調査、策定委員会、ワークショップにより内容検討